百貫抹

寛政御代百之一二三四五

特別
へ4
8196
4

835
^x
8196
x

〈2016-202〉

寶治百首

題

春二十首

歳中立春　山霞　春雪
朝鶯　澤若菜　餘寒
梅薫風　行路柳　春雨
若草　春月　帰雁
初花　見花　散花
惜花　落花　薩冬
松上藤　暮春

首夏
早苗
夏月
六月板

夏 十首

待子規
溪月雨
水邊螢

聞郭公
夏草
夕立

秋 二十首

早秋
萩露
秋田
山月

乞巧奠
秋夕
夜鹿
湖月

萩風
初雁
曉虫
野月

渡月
聞砧衣
河紅葉

庭月
重陽宴
九月尽

関霧
杜紅葉

冬 十首

初冬時雨
浅雪
豐明節會
歳暮

落葉
積雪
冬月

寒草
池氷
浮千鳥

戀 二十首

寄月戀
寄雲戀

寄雨戀

寄風恋　寄煙恋　寄関恋
寄籠恋　寄原恋　寄橋恋
寄湊恋　寄木恋　寄草恋
寄虫恋　寄鳥恋　寄歎恋
寄玉恋　寄鏡恋　寄枕恋
寄衣恋　寄弓恋

雜二十首

暁雞　夜灯　嶺松
里竹　磯巖　鳴鶴
巡除　江芦　浦松
松山　岸苔　山家水
山家嵐　田家雨　旅行
旅宿　旅泊　海眺望
寄社祝　寄月祝

作者

前参議正二位藤原朝臣忠定
参議従二位藤原朝臣資季
従二位藤原朝臣頼氐
従二位源朝臣有教
参議従三位藤原朝臣定嗣

参議従三位行右近衛権中将藤原朝臣師継
正三位藤原朝臣成實
従三位藤原朝臣頼氏
沙弥信覚 ＝坂内大納言忠信卿
沙弥蓮性 正三位知家入道 従三位行能入道
正四位下行中務大輔藤原朝臣為継
正四位下行左近衛権中将藤原朝臣為氏
少将内侍
辨内侍 信実朝臣女
寶治百首一 春部

沙弥寂能

歳中立春 忠定卿
行成卿 資季卿
[illegible] 頼氏卿
[illegible] 有教卿
[illegible] 定嗣卿
[illegible]

師継卿

年乃内も過し暮れくにいそかしなせハ春をまちやかれ

成實卿

冬ふかき春まつ宮の柳乃糸ゆはかくれかたきのかりけさ

顕氏卿

春立といそくもしらん月よりもやはまさしき年の日数かそへけり

信覚

年乃内にあふ春の光しとて山下水も春をしりけり

蓮性

大かたに春をまねかぬ宮の戸も松やはそらさ春まつとて

寂能

年はつもりせましかるれ河岩波もさく春立来也

為継朝臣

手もちて冬乃日数もとめさかにかくれて春やいかなく
きねらあかれ

為氏卿下

宮にまた春まちえぬ年の内にふりてひ松の雪
きねらあさ

少将内侍

なにさて見もしらぬ冬よりはなく春の内なる松の
あふれかう

弁内侍

冬も今いく日もあらぬ暮ぬれは春その程をまつひさしくと

山霞

思定卿

春霞たちにけりあしひきの山のかすみ立ちかくすらん

資本摩卿

春霞たなびくやまの山ざくらまだしき程を見るかな

頼氏卿

春霞たなびくやまの山ざくらまだしき程を見るかな

有家卿

春霞たちにけりあしひきの山のかすみ立ちかくすらん

定家卿

春霞たちにけりあしひきの山のかすみ立ちかくすらん

姉小路卿

春霞たちにけりあしひきの山のかすみ立ちかくすらん

掉姫乃かすらさ山ゝ

水実卿

春霞たちにけりあしひきの山のかすみ立ちかくすらん

顕氏卿

春霞たちにけりあしひきの山のかすみ立ちかくすらん

信覚

春霞たちにけりあしひきの山のかすみ立ちかくすらん

蓮性

春霞たちにけりあしひきの山のかすみ立ちかくすらん

[illegible]

[illegible]氏いにしへより民の煙とゝもにすまひ立[illegible]

為継卿

又[illegible]山のとゝけて久[illegible]乃宮も月とゝに[illegible]

為氏卿

[illegible]乃四上の[illegible]

出羽侍

今[illegible]

[illegible]

在原[illegible]

[illegible]

●[illegible]　忠宣卿

[illegible]

資季卿

[illegible]乃尾上[illegible]

頼氏卿

[illegible]

有義卿

[illegible]

宗副卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]卿

梓弓はるたつ[illegible]

加賀卿

かせ[illegible]

[illegible]

[illegible]

信覚

[illegible]

蓮性

[illegible]

[illegible]

為継朝臣

[illegible]

為氏卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物学　忠実也

仏乃ことも物学ならこそあてまことに学ぶ

資事也

素風乃さとり日ちと物学ぶ別て学つる学ぶこと

那氏也

今物に移学ぶ素と学てそ乃とふの学乃こと

有教也

物にハまことに学乃そ、学ぶ物の和也

定朝也

素これハ今氏うち学乃学を右ハ独に物学ぶ

邪徒也

立学ぶ学ぶ乃物ちと素を学ぶ学乃ふ

学乃教うち学ぶ乃ふ乃ちの学ぶ

那氏也

学ぶ学ぶ那ちとふ学ぶ京学乃男に学ぶて物素

学ぶ見

素ハ日の学乃ふ学ぶ学ぶ学ぶものとけさ学の教

蓮性

素乃学てあ学ぶ物けの学ハ仏を立て学て学ぶ

弁能

為毎度ことかゝるゝ事ハ
為継卿
さゝてたよ丸乃殿のときに
為成卿
ゆゝしくとのゝ
おゝ内侍
若乃ゝ殿ハ
竹内侍
ゝ為ハ
●澤若菜
忠定卿

法ゝ
資平卿
法ゝ
頼氏卿
ゝ
有教卿
ゝ
定嗣卿
ゝ
邦継卿

芝河内聖法寺書記に曰く法眼の時八幡より
成実也
基と、聖法の水脈かの所にて出る也
那氏也
今日基八野法の水の所にて出ると云て若者下宿
信覚 好人
為なり法眼の所にて八幡の神に祈て
蓮性
玉橋にて出る橋聖法寺也
年代 門徒

門徒橋聖法の名の起ハ
西蓮性下
今日なる若者橋と称する聖法水の神也
那氏朝下
異人を宿水のうちに出る門徒橋
お初用侍
法水の神に祈る義門徒の門徒橋なるして
外用侍
神の聖法の水脈なる故に若者なり
●篠宮 忠宮也

山乃端よりそらの海をこぎ出るかと
資平卿
海ちかくしつみ山乃雪に清水に月の宿りけり
頼氏卿
風さむしとやしをの山の雪の間ゆ[illegible]ひろう海の初花
有茂卿
風さえて霞ぬ[illegible]乃底いとすみこそ[illegible]
定嗣卿
冬乃こと宗く[illegible]ハ[illegible]の山のもの焼[illegible]
邦継卿

[illegible]
成宗卿
[illegible]
[illegible]氏卿
今[illegible]
信覚
[illegible]
蓮性
[illegible]
[illegible]

[illegible]

為継朝臣

[illegible]

為氏朝臣

立[illegible]

[illegible]

山の井の清きを汲まば[illegible]

[illegible]

梅薫風　忠定卿

[illegible]

貞重卿

[illegible]

頼氏卿

[illegible]

有教卿

[illegible]

定嗣卿

[illegible]

[illegible]

立かへる家の門乃梅の花匂ひ来る風を吹

成実公

梅うゑの匂ひに誘ひ来て宿を風吹

顕氏公

吹を待風乃角をたをる梅の枝

信定公

吹過ぬ梅の匂ひ残りけり乗乃山風

基世

梅うゑを誘こなりふる風も花の匂ひ残る

寿能

梅うゑの匂ふ方より来る風の袖

為継卿

梅の花匂ひ袖に残る風の袖

為氏卿

梅の花をるへなるこゝろ吹

為冬卿

梅乃花匂ふとてあふ匂ひ

弁内侍

梅うゑの花の後の春の風

行路卿

梅うゑの匂ひ袖に残る

忠定卿

弥まさにさとりの村乃郡ふのうなもも稜威
資孝々
いくさもちろく成みはし稚姫乃玉の乃ぬ玉郡の乃
彩氏々
乃の名乃かもの河水乃郡乃玉乃ぬ
有義々
玉鉾乃乃の郡玉ぬ乃ふ人のいりふを知る
宮駿郷
乃の名ふ礼て白ひく玉郡乃本之ひ乃ふ乃ぬ
邦継々

郡縁をあけ〜ゑを玉郡を方人のかうとそろる
成宗々
玉郡乃乃ぬ乃ひ乃ぬ乃ふ乃ぬ乃ふ
頼氏々
行末の里乃玉人の夕ふ乃ふ乃ぬ玉郡
行光
玉郡の乃ぬ乃ぬ里乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ
蓮性
玉郡の乃乃乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ
宗綱

乃郎兵衛に称乃為あそ[illegible]ふ
[illegible]称乃[illegible]の為[illegible]

為氏卿

乃ゆへの河そひ称いとゝ[illegible]

おなし国侍

宗張乃みの下[illegible]

分国侍

[illegible]乃[illegible]

忠宗

一[illegible]

資重

河毎ふハ[illegible]

頼氏

[illegible]

有義

[illegible]

定朝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

成実々

[illegible]

源氏々

[illegible]

[illegible]

蓮性

[illegible]

[illegible]

為継朝臣

[illegible]

為氏卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

若菜　忠定々

[illegible]

資季々

[illegible]

頼氏々

[illegible]

有義々

[illegible]

定嗣々

[illegible]

師継々

[illegible]

成実々

[illegible]

[illegible]氏々

[illegible]

[illegible]

蓮性

[illegible]

[illegible]

[illegible]

為継朝臣

[illegible]

為氏朝臣

春日殿[illegible]

かねの侍

[illegible]

弁内侍

[illegible]

春月　　忠定卿

[illegible]

資季卿

[illegible]

頼氏卿

[illegible]

有教卿

[illegible]

定朝卿

[illegible]

師継卿

[illegible]

成実は

梅の花にうぐひすなくの月のうち白雪ふる年

頼氏は

村雲を分てぬけいでぬ東より月すみわたる空はれにけり

信光

雲ぬけて首乃月をひいてゆくかりの月秋なし

蓮性

新しく空とぶ、ひて光なし雲の河らかぶ月うそ

常徳

ひとりて村雲ぬけ出の空月ハ行の道ぬ行ん

為継朝臣

久敬をれはなりひとりゆるを松ぬに生ぬ岩ぬ苔

為氏朝臣

久方の月の光に見ゆるまでかすみ立ぬる春の夜

お和田侍

くもりとハ見えぬ和かな久方の月の光ぬ春

弁内侍

打絶て注と雲の花まとも見えぬ春の月哉

帰雁

忠定卿

くもりなく雁を見てなりてなく雁家かりうり孫

資季卿

頼氏卿

有教卿

定嗣卿

師継卿

成実卿

顕氏卿

信覚

蓮性

寂能

西園寺朝ト
[illegible]
西民朝ト
[illegible]
如月侍
[illegible]
弁内侍
[illegible]
初花　忠定卿
[illegible]

資季卿
[illegible]
頼氏卿
[illegible]
有教卿
[illegible]
定嗣卿
[illegible]
師継卿
[illegible]

成実卿

[illegible]

顕氏卿

[illegible]

信覚

[illegible]

蓮性

[illegible]

[illegible]

為継朝臣

[illegible]

為氏卿

[illegible]

如為関侍

[illegible]

弁内侍

[illegible]

見花　　忠定卿

[illegible]

資季卿

[illegible]

頼氏卿

[illegible]

有教卿

[illegible]

定嗣卿

[illegible]

師継卿

[illegible]

成実卿

[illegible]

[illegible]

信覚

[illegible]

蓮性

[illegible]

[illegible]

右繼朝卜

咲花をこの白雲にまがへてもいとせてうん

右氏卿

いろまの色にうつけは花桜うちにてちるをうきを

少納言侍

白雲とたなびもいて山桜これは春の花とそうら

弁内侍

白雲にまがへまくとも思せねんを桜をかりてもかな

散花　忠定卿

うちはらうあまをとく見の風散をまたにも散なれ

資季卿

余和ろうとうとも思桜散をも惜からはるる

新氏々

はるの方人の桜ら花ぬとなるよ春やうらん

有教々

山桜ちらはて永こ月も思ひ思ふれ

定嗣々

山桜散なはりて沈ぬも桜とうれ世代と初をを

師繼々

今日こそ五日ちもちんと公先なまくれと春のけく

成実々

[illegible]

[illegible]

信覚

[illegible]

蓮性

[illegible]

常能

[illegible]

為継卿

[illegible]

為氏卿

[illegible]

如覚侍

[illegible]

弁内侍

[illegible]

惜花　忠定卿

[illegible]

資平卿

[illegible]

藤氏卿

[illegible]

有教卿

[illegible]

定顕卿

[illegible]

師継卿

[illegible]

[illegible]

藤氏卿

[illegible]

信覚

[illegible]

基任

[illegible]

[illegible]

[illegible]

為継卿

行やらかひなれ日のたかけてまたこそといひし桜かりかり

為氏卿

見はやなをひしはるの山桜けふの花見のうさはこゝろへ

加藤内侍

いくとせもいくよ八坂の春を重ねて見る花桜かな

弁内侍

行かぬ無桜なりせは行人の春の花のちるをしもせし

落花

忠定卿

谷深み ゆきとはまかふ花の色を花そとせよ春の山風

資季卿

桜花のちるまて雪と見ゆる庭を無秋の空に見ゆるかな

杉氏々

たか為も花の下径を分て霞をかくる乃別なるらん

有教々

都人とかくとは山桜にちる乃今日乃なき風

定嗣々

今日ひとの風乃絶にく来ぬ世にも花をさそひん

師継々

見る人の移り花桜風吹て行くる無宮に留て捨よ

如実之
風ふかぬ梅の雪の雪とこそ
形代之
人落花に梅に雪もなかりけり
信覚
雪よりも白き雪乃いろし水こそ
其性
今百梅の雪とのこそ
寒花
ちらぬ梅のかうらの水こそ
乃花

為縫朝臣
ぬぎすてし雪と梅の山梅ふかしもうつる花
為氏朝臣
梅の行日ふに生く三吉の山の梅を雪と梅て
少将内侍
山乃花を雪と梅ふりしく人をまつ
弁内侍
梅ふりて雪とくるに如なん乃花の梅を乃
雛歌
忠定卿
夕雪を花にふる日乃人を梅乃山風乃れ

資幸卿

三わのひと〻色〻作るよりとなん花をもけなる鶯の声

形氏卿

極て色〻雛のかたちの花のえもいはれぬさま

有教卿

ひとつ色ふかしかの花といとをもしろきさくらとん

定朝卿

雛ゐる雛も俗なる色〻八重山吹の花のうへく

師継卿

ちりまさるかの一ひらのまの花の間の山吹の花

成実卿

年ゆ色〻なる雛もうるはしく〻花色花山吹の花

顕氏卿

三井人ともまさんの花の色をかりなるしを

信光卿

極をきく作りすてゝ雛の花雛の山吹の花

基性

雛のもとに三ゆ〻雛ゐる雛をうゑ別れ全れ山ゆき

宰相

咲なる雛八重ふのつるなる八重ふく雛の山吹の花

為継朝臣

山吹乃花の籬とみえてみなとかこふ井手の里人

為氏朝臣

いかにせむ人こそとはゝ山吹のくちなし染の花の籬を

少将内侍

おとなはゝ八重まてかさる山吹の垣の籬に春乃山里

弁内侍

今よりは春の垣ねはならしともいとくそさける山吹の花

松上藤

公定卿

さかりは藤の花こそもさくと老木の松も春に逢て

資季卿

年つもる松の梢やたえまなく緑もみえてかゝる藤浪

顕氏卿

住の江の岸より松にかゝりてそ春見えはさしにかゝる藤浪

有教卿

藤の花咲ぬる時ぞ山里の松の梢もみどりなる色

定嗣卿

十かへりのまつとの藤やこゝになれん千とせとこそにかゝる藤浪

師継卿

年ふかき汀の松にかゝれるはふかみとりなるはなさき池の藤浪

成実公

かすみ立こめて春の来ぬるとうち松ふく風の音

顕氏公

松風のとうの緑もうつまさく花ぞさき池の面に

信定

ゆふ日かげうつるなつの夕ぐれ

基胤

春の来ていやこの松の色ぞ

宗信

春の代の松のみどりの色ぞ

為継卿

うち寄せ松の波のかけ

為氏朝臣

色ぞ春なる汀の松も今ぞ見る波の花

為冬卿

立帝の代の波かけて汀の松も色まさりけり

弁内侍

色ぞ春なる波かけて

雲長

恵定卿

緑の松と見し年とうちとけ

弁内侍

[illegible]卿

[illegible]

[illegible]氏卿

[illegible]

有教卿

[illegible]

定嗣卿

[illegible]

師継卿

[illegible]

成実卿

[illegible]

顕氏卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寶治百首二 友部

首夏　　忠定卿

[illegible]

資平卿

[illegible]

[illegible]

有教卿

[illegible]

定家卿

あさまだけふは色ももしろたへにかはるかきねとはみゆ

師継卿

花乃色にぬきかへて夏衣きのふの色をかへすらくなるらん

成実卿

立なれし花の袂もきのふまて一重にけさは衣かへ哉

顕氏卿

立かへるけふさきぬれは白妙の色なりてさへやまて夏の卯花

信覚

色はひく衣手にかけし雲の天乃羽衣たちやかさねん

堯性

荻ねの花染にほふ衣こそ猶もおしむと見えしく恨みもやせん

寂能

布引乃滝の白糸夏衣きては岩ねのこけも色やそふらん

為継卿

夏来ても猶雲井の花をぬきかへてけふ立そむる夏衣哉

為氏卿

今朝よりは蝉乃羽衣うすくともたちかへてこそ衣は春なれ

加賀内侍

いつしかとけふより衣にたちかへて白たへなる天の羽衣

弁内侍

左衛門尉もりよしなどさしつかへ給ふの事

侍郎云　忠宗卿

[illegible]

貞重卿

[illegible]

[illegible]

有教卿

[illegible]

定親卿

[illegible]

師継卿

[illegible]

成実卿

[illegible]

顕氏卿

[illegible]

信元

[illegible]

[illegible]

時鳥くこ宵とやなのりすし今宵は手ならひまたまたひ

宗能

鳴とて待もうかりし時鳥初音ハ秋に残りまれハ

為継朝臣

初音きく人のいはぬハ和しかまさりて猶思はるゝなかそらに

為氏卿

待人ハ木の間にまつや初音よりひとこゑも初音きこえほし

如願法師

御子初音待もうかなく聞まほし秋すむ時の心なる

寂円法師

我かやとに鳴てしらせよ時鳥きのふハ人にまたしらし

少輔公

鳴声そおなしとも別ぬ時鳥きのふハたかにひの暁の空

忠定々

まちかねく人よ告よ有明のさ月の時鳥思ひたへたる

資季々

杉氏々

猶乃村その山の端あかず月待けるは思ふ言よしを

有教々

かつ河乃山時鳥ハ皆くるれ思ひ猶子ハ鳴初ねへん

定嗣々

夜も皆りのおもひなれぬ我をまちいくまてそきく山郭公

師継卿

時鳥行とうしろ卯花のかけにかくれて鳴つらん

成宗卿

行末もまちね山ちの郭公伊勢まてこゆとしてそまちらん

顕氏卿

去年の秋といひつゝ今年も時鳥いつはなかれぬ宮の鶯

信覚

老ぬれは杜の時鳥ひとこゑのまちとしもまちかねん

基性

いつしてまちしこゑすく時鳥かつゆへくしらぬ秋ならひ

寛能

み山出てなく時鳥をまちこそわかれ辺の人もきかん

為継朝臣

声のみぬ荻雲けら絶間よりまつをかなつかしみ

為氏卿

鳴やらぬ五月の雲のゆくゑかなたちはなの香をまちやらん

少将内侍

五月雨のはれやらて時鳥ひとつの雲のはれまたに

弁内侍

[illegible]

早苗　忠定卿

さなへとる田面の水乃深緑　山もそよぐ
賀茂の
山城乃さと田植の夕暮　民もあの
[illegible]苗とるらん
教氏卿

今かとて早苗とりしたる山田のもとに入るあの夜ぞ
[illegible]
五月雨の田のうへ[illegible]行立田のもとに
[illegible]
定家卿

[illegible]

[illegible]
仰徳卿

[illegible]
成実卿

[illegible]苗を丸[illegible]
顕氏卿

[illegible]苗の[illegible]
信元

[illegible]苗とる田子[illegible]
[illegible]性

けふもみ田子のいとなみはしそて袖をぬらして早苗取

実信

松浦川鮎はせもしらすなから浦風ふく小早苗とる也

為継卿

さ月雨晴ともなくて山田にもしらくらて早苗とるなり

為氏卿

たかまくてさ月さねともえ山田のさくらへすゑ日も

少将内侍

けふいく日かきそふ袖もほしわひて神田の田子の早苗とるらん

弁内侍

小山田にまけるたねの浅みとり袖もひつちて早苗とるとて

為定卿

溪五月雨

五月雨は谷のかよひち絶にけり風わたる渓のしけ行

資季卿

吉野の瀧の音そふ五月雨に細谷川の声ひくなり

教氏卿

五月雨の日をふる深山の谷水のそこと見えぬ岩の苔水

有教卿

五月雨は谷の杉むらかくろへて花の色なき道ゆく人

定嗣卿

御所のおりそのさうもうなる五月のこと
御縫殿
手負ひ者九人内藤四郎兵衛尉
成家卿
内てさうよりうまの者九人ふしの者
顕成卿
若侍衆ハ、かりの方ニ神四郎左衛門尉
信忠
三人者九小川乃右衛門尉ハ手ハ
基世

若乃御所ニてなくなりのうもうもみんなを五月廿四日
家仲
右衛門尉ようをのうまを御ぬ号御てうとふ御ぬ者九ハ
為継卿
五月廿四日乃右衛門尉ハ手ハ者のけ
為成朝臣
右衛門尉ハ、くゝ月数の御ぬ者九ハ
為冬朝臣
かなゝ御ぬ者九ハ
午四侍

谷陰のいさゝ川ひのおとすまて深く岸ある夏のふかくさ

夏草　　為定卿

しはしこそわけぬ草の八重垣夏の野をすゑもまたなし
夜をこむるのすゑ乃今更小ゆかんとけふしけるかな草

頼氏々

はらひかね(?)すゝ崎の庭草に枯(?)けり露に霧もはらはし

為教々

敷のしけり草の深けれとのみひく野の末の風そわたるよ

定嗣卿

とふ人今はたえぬるかもとや道もの庭の草の露にたはふれ

師継卿

大あらき乃杜の下はらせも深く生草の茂り中ぬかな

盛実卿

摘人の入野の草のえたはしけくもとはしも分なし

顕氏卿

かく人今もとむるくみな今も忘るゝん跡もなし見えぬよ草

信覚

吹風の音もさえてふかき草の下露ほろほろ人の中にかな

基性

今もさも入野ふかき山陰のこのねのとりゆくにまた草

[illegible]

為成卿

[illegible]

為成卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏月　右宮卿

月のてしかの秋[illegible]

資季卿

夏のうちはなれて[illegible]神の流れる月の秋

秋成卿

天の河[illegible]

有義卿

夏衣日[illegible]秋のあらく神[illegible]

定長卿

[illegible]

師継卿

いにしへ世くもりなけよ春の月のうれしきまでの光なりけり

成実卿

吹風乃ものすさまじきあきの秋のくれにたちそふ月のかげ

顕氏公

夫木抄ものすさまじき題出よいさよひの月

信定

行末のうらなれぬれはよるの月秋の月

芝性

秋深夜月

秋深夜月

月のうらなれぬ心もなれぬ山乃端の月

宰相

天の戸にいはくもりなく秋の月まてのあかつきくらん

為継朝臣

月見ハ秋とかぎりなきものなれとなほ秋ならぬ月の光

為氏卿

夏ゝ月の玉川のうれ秋をけふ月やきる月乃けれ

為冬朝臣

山乃ゝ月ものとうてなのをかさ

弁内侍

秋の夜の行てもいかなる夏月のうれぬのゝ月をかな

水邊螢

かゝりも螢乃志けくみゆるを野澤の水に影やうつりて

為定卿

資季々

何方に行もみえぬ沼水に影をうつして飛螢かな

教氏卿

葉のハ木の下にしけ見えつゝ河にうかふほたるかな

為義卿

夏衣も波に螢のたえく河にとよりてなを影

定嗣卿

水の面によせくる螢をうつしつゝまた今の光とそなる

師継々

芦分く浪にかくれてもなほもえしてゆく螢かな

成実々

せきとめてくゝる木陰乃山のゐに葉末にとふ螢かな

顕氏々

山河のいはまの水のたえたえにきえもみえてとふ螢かな

信光

秋近み人のみえぬハ河霧の影をとゝめし岸の水

基雅

見るまゝに光き焼火の影なるハ池乃ほたるなりけり

窓螢

古川のよとみにすたくかけはほたる也けり
為継卿

夕涼みたてるあたりの風にもゆるほたるのおもひとそしる
為氏卿

涼しさに消ぬおもひの程みえて我住かたもなくしもる螢
為子内侍

語りそしおもひはきえし程も螢の消ぬに明ぬよもなかりけり
弁内侍

みそめてもおもひをそふる竹のはの宿に螢や飛らん

夕立
為定卿

風わたる吹の外雲のはしりきにてまた聞とゆる夕立の空
資季 同

夕立の雲のゆふまて庭の浅茅の露そ涼しき
教氏 同

涼しさは夜にも往なふ夕立の雲にかくるゝ稲妻の影
実兼 同

夕立の雲も一むら過ぬれといくらともなく露の散らん
定嗣 同

夕立の雨しはらくは久かたの雲のまくし風ふきて秋の空

師繼々
成實々
成氏々
師氏々
師兄
芝性

六月廿日　太宰の大弐

清原朝臣夏野の上表文

資人の

雲林院裏の別業無常となりぬ

藤氏の

六月の六日河原の院なりし山の雲の内に

皇義の

清原朝臣夏野月ごとに今宵は

定朝の

六月の月ごとに今宵をこそ

師綱の

今日のごとにもしもしらしめし四海をまつ

成実の

無常をとゝのへ来れるなるべし

藤氏の

あはれなるかなとぞ

清原

うなゐの月をかたらひし

基経

無文の月いとあはれなり

清原朝臣夏野の上表文

清原朝臣夏野の上表文

清原朝臣夏野の上表文

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋部早秋　出定郷

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元弘貴　右定々

[illegible]

資重々

久要の天は星合を雲の上遠く今ぞ見し

[illegible]氏々

[illegible]の対ふ[illegible]乃星の[illegible]

[illegible]々

星合の空よ[illegible]を[illegible]人つかのふ[illegible]の[illegible]夫

定[illegible]々

[illegible]

師継々

[illegible]乃独のふかひよ

成宗々

星合の空[illegible]ぬ[illegible]とに[illegible]夫

那成氏々

[illegible]の対[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]秋の七月の対の[illegible]星合乃空

[illegible]性

[illegible]星合の空ふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

萩風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

師綱卿

今ぞ空萩乃葉ゝ風そよ吹て秋の来ぬる

成実卿

秋ぞ来ぬと吹出て覚る風ゝ萩の葉ゝ

藤氏卿

萩の葉に吹ゝ風の音信ふ人ゝ上風を

信実

新玉の月ゝ来ぬ方ゝ小ゝ秋とゝ月ゝ萩の上風

蓮性

夕暮の風ゝ訪ゝ萩のしたれ未もとゝよ音て実ゆゝ

宰相

秋乃ゝ来ぬ方ゝ萩の上ゝ風の音ゝ

為継卿

吹ゝ今日秋の初風吹ゝ音信ふ庭の萩ゝ

為氏卿

萩の葉ゝ今ゝ音信ふ人ゝ秋の初風

如阿法師

音ゝ萩の葉ゝ秋風の吹ゝ来て独も知

弁内侍

いつ井ゝ秋ゝ来ぬ萩乃ゝ今来ぬ秋風ゝ

萩家　右定々

かくまたにまれなる木ども枯うひくもを深く萩に上家

資平々

玉まくらの白家々よりよく萩に初琴弾ん

藤氏々

浮ちにしかけの萩のかけはとかうく浮萩の家

玉殿々

家のはしらの白てうち掉姫に萩の弾に秋の色く

定嗣々

神楽　公秋萩に桜色の日とにまうち白家

師綱々

立ちてうつ八重白家を白にぬくうのく萩家

如実々

色くよ萩に弾に深てうち雅白家とうひうち和

藤氏々

玉殿に家々ちうて深ん下秋色玉々の萩家

信定

秋萩の師色に夕家かとうくぬ玉牛に雅ん

基雅

人々八重に家の家に上よかうと弾う萩の花

宴曲

梅ちる花の白萩下葉の露に濡れて

為継朝臣

萩乃花ふるまいをとゝ秋の露に袖をぬらす

為氏朝臣

白露に梅ちるかゝる春の夜の秋萩の花

為冬朝臣

紅葉とゝ乃ゝ秋の露ふかき秋とゝ花の色

弁内侍

萩に梅ちる外とゝ秋はゝ露に袖ぬれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

師縁仏

夕暮ハ雲月日ハ雲ハ秋ハ何て涙ハ落そうん

如実仏々

いく秋か我身ひとりの夕暮とみてわすれ年ハ経るん

那氏仏々

世界花ハ色ハ紅ハ夕暮ハ雲ハ月ハ秋ハ

信光

岩ハ色ハ紅葉ハ秋ハ月ハ雲ハ涙ハ

基性

秋ハ心ハ色ハ月ハ雲ハ涙ハ

宰相

浅茅生ハ月ハ雲ハ秋ハ

為縁仏

いかなる人ハ秋ハ月ハ雲ハ

為氏仏

秋ハ雲ハ月ハ夕暮ハ

如阿仏

月ハ雲ハ秋ハ夕暮ハ

年阿侍

紅葉ハ月ハ雲ハ秋ハ夕暮ハ

初雁　大江定

はつかりの雁の翅よ雲ぬれかくなる
夕べかな

ゆくさの雁の翅ぬれ今宵しも秋とは今を今こそ雁の
来ぬ人々

初雁の翅ぬれしの宮の雁も風を添へて雁の
来ぬ人々

初雁は今を雲路ふきぬれ雁なるらん
定頼朝臣

初雁の翅ぬれ雁金はいかなる雲を今やゆくらん

仰徳朝臣

雁金は雲路をかけるつばさ雁
知実朝臣

ぬれぬ雁金ふく秋なるまれに初雁の翅
藤氏朝臣

雁金は雲路を雲の雁なるらん
行尭

荷ふ為に伝へ初雁の音ひびく秋はうれ
基雅

旅の空わたる幾重の雲ぬれて雁の雁のさ

寄合

久堅の空ふかしと雲の波の立ちまさるらん

西行法師

今はとて雲のよそなる秋風の吹くを山の初雁の数

西行法師

片山里なる秋風にしく雁そなるなる

中務内侍

和歌の浦に秋の来ぬれば月の海に雁の数

弁内侍

立ちそ初めて秋の来ぬれば雁の声にぞ目をさまし

秋田　右京亮定卿

秋ふかみ田のうへ吹くなる風の音に稲の穂波

資平公

人もこぬ山田の庵の音信るるは秋の夜

秋氏公

ちぢにふく夜毎に吹くや田の面の草に埋る秋風

忠義公

屋かけ田の稲葉の秋の風を

定嗣公

秋の田を吹くなる風の音にぞ稲の穂波

師継公
我と其宴のうやいせとうかてあくてふ物ひさ[illegible]
成家公
尺渡せハ田面に稲のそよ[illegible]
[illegible]氏公
[illegible]門田に稲とうわ[illegible]
信定公
小山田に[illegible]道ふ秋風小[illegible]
基任
[illegible]田乃かゝ[illegible]

[illegible]
秋の田のとゆ[illegible]に稲よ[illegible]
西園寺公
[illegible]門田に稲[illegible]ひよ秋のさらと風[illegible]
西氏公
田[illegible]の小山田の[illegible]秋風[illegible]
[illegible]
[illegible]世間小[illegible]小山
[illegible]
[illegible]小山に稲[illegible]

教庫　　右定々

妻定秋のこひのもとわかとさう庫秋の部

資定々

独行ハなよのひ秋乃教ハわかとやとも哥

形氏々

三吹よハの風よ屋ら之て

ゝ哥々

ゝ秋尾上の庫も秋風ふ教や妻と志ん

定副々

ひ定秋教ら乃小男庫ハ哥なく妻定秋

師継々

秋と屋ハ之てたゝ形教を可ゝ之ゝ庫のゝん

如実々

ゝ河の宮ゝ哥ゝ哥庫ハ之ゝ秋ハ教ゝ

形氏々

ゝ定之ゝ教ハゝ之ゝ教ハ教ゝ庫ハ教ら

信定

ひゝ定ハ教乃秋風小ふゝ之ゝ之ゝ教

基雅

之ゝ形ハゝ之ゝ庫て哥の之ハ之ゝ屋屋定

[illegible]

[illegible]

[illegible]

師継公

暁は霧ひくあしたの雲に春かすみ

[illegible]

[illegible]の暁ゆくかぐや姫

信定

わさらふしたのの秋とは知るに暁ぞ出てゆく

芝性

長月は雲にわかれ菊ふるなり

寒法

[illegible]は[illegible]

西園寺公

風[illegible]

西園寺公

今宵は[illegible]

西園寺公

今[illegible]

[illegible]

今[illegible]

[illegible]

[illegible]

山月　右定々

玉ぬきの月の河よりなりてこそ嶺にかゝる月の影

資平朝臣

秋の月の影さかゆくふかき夜すがら月はいとて

彼氏々

秋の夜のかゝる山の端をこそ月の宿とは

基義々

そもそも秋のとゆくひなりとひろく月流のかりきしなる

定顕々

夜の月はいとゆく事ふかくなりぬ

師継々

なかのかの山の月もいかなるひとかはん

敬実々

月の新の上の山はかゝる秋のやとりとよりて

彼氏々

詠ずるにこの月の影ふかくなりぬ

定光

岩戸あけ神代の月のかゝりてそ限なき光のよ

基雅

清き光ありとよまれし月をこそ

寛延

風をいとはいとゞ秋の山をたゝして月ハ沈そを
　　為綱卿

空晴くゝそ山ハ月　山のくゝよ等　秋ゝ空の月ぬ
　　為氏卿

見し山ゝ　ゝ　ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
　　為相卿

山風ぬ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
　　中納言

海ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

寶治百首三　秋部

湖月　　忠定卿

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

行潮や志賀の花園かすみもて　秋月流る

仲績々

行潮成志賀の大海せいらうひとくもそる展

成宝々

月宝々紀彩を幾秋うつる沖月の如水

成氏々

今宵又水思月紀をそうぬ波秋そうれ

信元

鳴海や秋の秋月水清船氷を分波法の泉波

芝性

あま人も花乃浦の波の波を月かゆゆと今宵いそん

宰伯

行潮や月と晴ると吹ふらひらひら根山下風色

為継卿

網波成志賀浦人又波釣る神の月をうらん

為氏卿

網波成氷よりの秋秋の月月思ふ浦色

為冬卿

志賀の遠山のつゆ月と見へ秋月秋ふ水ふる

弁内侍

[illegible]

野月　　右定々

[illegible]月乃ひかりに[illegible]武蔵の[illegible]

資孝々

[illegible]月を[illegible]

[illegible]氏々

[illegible]酒ふ[illegible]下[illegible]の河[illegible]

[illegible]月

[illegible]々

石上[illegible]乃[illegible]

定嗣々

[illegible]

師継々

[illegible]月の[illegible]

成実々

[illegible]

[illegible]

[illegible]月の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

為徳院殿

[illegible]

為徳院殿

持ちひく酒乃雫へのなかれ[illegible]月かけ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山城乃とを小遊ふ歌まつ月渡の渡ふ船の
　　　

[illegible]の秋[illegible]の月て[illegible]

資季々

遊[illegible]月の[illegible]

[illegible]々

[illegible]秋の[illegible]

[illegible]々

[illegible]月の[illegible]

定[illegible]々

[illegible]男[illegible]

[illegible]々

[illegible]秋の月

成[illegible]々

[illegible]遊[illegible]月も[illegible]

[illegible]々

[illegible]秋の月

[illegible]

[illegible]秋[illegible]

[illegible]の[illegible]月

[illegible]

[illegible]月[illegible]

[illegible]

[illegible]

右定之

関所

我門と彼門と相対する所に番所を置き相勤

陸奥国の関と定む

関所の左右とも[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋穿ハ乃山人ハ[illegible]立[illegible]ハ[illegible]

[illegible]氏名

穿[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]乃[illegible]人の[illegible]立[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

関といふ名[illegible]浦人ハ穿を[illegible]

[illegible]

穿乃内ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]坂と[illegible]人の[illegible]ハ[illegible]

[illegible]氏名

[illegible]ハ[illegible]と秋の穿さく[illegible]

[illegible]侍

秋穿ハ[illegible]立[illegible]ハ[illegible]

[illegible]侍

[illegible]文[illegible]秋穿[illegible]

[illegible]衣　[illegible]衣の[illegible]

君をこそ人々かなしび慎みて
資季々
ひさしく金石の堅きかの一筆くさぐさの
教氏々
書をうけ給はりの衣をかふりて秋風に吹
基義々
風をうけてうの里の衣掛をとうく吹送り
定嗣々
こけ人今宵ぞ忘し時もなくうら寂
師継々

秋乃夜月の高く空に冴わたる
故実々
山の月乃わさの衣うち絞ぬ袖に
俊定
高砂乃松の音ばかりを聞て
教氏々
高砂乃松の音ばかりを聞て
信光
門の庵の嵐の山のさよ衣
基雅
賤乃ぬ衣一夜のうち我百敷の
宰相

酒とりまぜ接待の美味いるん衣うけ取れ始めを
為継指図
今うれ祝儀の宴秋風ふくをよとう衣うたん
為氏指図
金糸よ空吾祝儀多の出来とわれぬ衣うたらん
少弁指図
空かうよりやハ祝儀数ハ知ると衣うた出中を
弁同侍
ちゑ衣うう祝ね取乃取とわもうを猛や人の衣たらん
重陽宴　右宴之々

かう玉代金の宴ちゑうひうを酒けうれ色れ
資実重々
九重ハ菊さねく白ハし女子ゥ重ふ独ふ酒ふ重ふ義
教氏々
四人の弘ハうく代のおとゆりて秋とそ出ぬ菊ハ酒さ
五重義々
形ハ重ふ菊ハ色ハ面ふ酒くはさぬ乃世ハ人ゑう
宣之副々
さうゑて重一文字て乃ゑをひうをハきう乃とし
師継々

盃乃数にて屠くこゆる程雲のうへなる菊の花
なれ実なれ
盃小枝乃ふ菊ふ[illegible]ふく垂ちん雲ふ[illegible]ひと
張氏紀八
盃ふう屠てこゆる菊乃ふ[illegible]乃ふ屠こ[illegible]
作元
九重ふ八重ふく菊に女子の神ゆ乃ふ毛垂ハ枝し
芝性
百敷屋秋のつくもゆんふ菊ふ霜の上の
斎能

天降星光をうしも菊ふ花ふ[illegible]月ふ乃ふハかふ[illegible]
為徳朝臣
菊乃花乃ふ九重ふかふて[illegible]花ふ[illegible]ハ程の久[illegible]屋
為氏朝臣
九重にひふ[illegible]ふ[illegible]ふ法人の花ふ[illegible]乃菊ふ[illegible]
少将内侍
[illegible]ふ[illegible]星ふ位ふ[illegible]ふ秋ふ雲白の菊ふ[illegible]
弁内侍
[illegible]月ふ[illegible]と云所ふ[illegible]白菊を[illegible]人[illegible]ふ[illegible]ひと
松殿
九重人

原なるかいその社に移不移そ就業の年、新酒
貢米の
神主の社の下家不本を忘れ全くそ発
新氏人々
移しまと紀の社の夕時雨寺間そ社紀業
三毛人々
物の新米紀乃社の下紀業社さて紀り三毛業
定副人々
わ移さと夕日の毛新添て紀業とな抑米を
師継人々

三人乃神主人移しの田の社社の紀業
成実人々
家財毎とその業の社ふ色そあり社とゆん
新氏人々
大りさの海田の社に商紀業かたく家の文深之
信光
家所の田紀業乃多くふ志の社乃ち志の社を
芝性
村毎に年に注米に金のとりて文社の移そゆん
産法

[illegible]

[illegible]

時雨も雨うしほとるる長月は三笠の社の紅葉ちるらん

右[illegible]

河紅葉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

この比いかりさの渡より立田川をみて紅葉うつる
山路の紅葉は霧の深衣きて
山川かけて
山川かけて
立田川を紅葉の錦
いとゝ
紅葉の色ふかきよ
立田川の秋のゆふ
井手

[illegible]

貞享々々

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

定嗣々

書とゝ[illegible]琴の海のうへ[illegible]

師通々

[illegible]

成実々々

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蓮性

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
為継卿
[illegible]秋の別を[illegible]は
為氏卿
[illegible]
[illegible]
[illegible]秋[illegible]
[illegible]
[illegible]秋の別を[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋過て冬に入り雪乃空かきくもり時雨ふりて
成実朝臣
冬こねと分へき色にみえねは時雨降る神無月哉
藤氏朝臣
神無月志賀の浦とて、汀の雪のかきくもり
信実
為小舟なりけりの初時雨降て首尾を変
基雅
篠と木高き神とうこてれと時雨に濡る神無月哉
宰相

初時雨ふりうるおしけいの中の初風てうる
為氏朝臣
神無月時雨と云よりてそ何ふ色乃空を見
少将内侍
志ぐるまてとうらに色をそ見しく立村雨の今降
弁内侍
時雨降る嵐のうちをそ見しく冬の年はり
藤原
拾ふて藤原乃夕時雨降岩根の色をそ見
右宮内卿

今ちの事ともの
新成々
神今月つまるまで松乃山風の中方乃事業の果ゆり
玉葉々
玉葉中ゆ乃ゆ神ゆ乃ゆ宮の山ハ嵐ゆ
弁内侍
中ゆ乃ゆ
宮内卿
志ゆ乃ゆ
志ゆ乃ゆ
貫之々

[illegible]
新成々
冬ゆ乃ゆ
冬ゆ乃ゆ
玉葉々
初ゆ乃ゆ
定家朝臣々
[illegible]
師継々
今ゆ乃ゆ
成実々

冬草乃葉末を[illegible]の[illegible]枯野に[illegible]
[illegible]氏々
とりつる枯てもなを冬草の花なるもとうもの
[illegible]
[illegible]風清て枯草しきしを[illegible]
[illegible]
冬草に七人の志けるかの[illegible]草枯ける
[illegible]
冬枯よりもなを[illegible]
[illegible]

草枯乃門風冬の[illegible]
[illegible]氏[illegible]
[illegible]乃[illegible]枯乃色のひとしかる冬[illegible]
[illegible]
冬草に[illegible]
[illegible]
枯枯[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

今為末世衆生之義小義なれとも衆生の為に
形成仏々
成無為乃至法性之身なれ共
有義々
菊如花開色々物形現しから成雪の如く
定聞々
如来常住の雪乃ち井山々に今上人七日の
師徒々
垂迹と者とやうに成仏法界本理と宗也と者
成実々

ゆるしなれとも初者小乗色心ともに
顕成仏々
俗諦と云乃雪の如く酒と酒ちらはしたる
信受
大乗やけさう雪如く酒ちらはしたる
其性
さうる酒水しんのうの如く神ちくちらはしたる
寂仏法
いたり仏法果ん乃中に酒深しなる初者なり
為徒弟々

乃至西の松小路なる乃和言子人七郎
為氏朝臣
菊の花の色七形なえてたひらに降けるの和言
少将内侍
山風のうちそよめき雲乃言なんなんなくなりけるの和言
弁内侍
さりの花庭の雪をうつして一章かうひらく人も通り
積雪
忠宣公
秋の夜乃月乃光小海ふかんなるたゆる所乃和言
資季公

昨日乃小雨乃名残乃和言もいまだなく降て
秋氏公
きりの乃色乃絶乃ふん家ゆ入ゆるゆとうの和言
正義公
蹴鞠乃人乃袖乃ゆ乃ゆ乃雪乃曙
宣朝公
山本に山風乃雪乃風をいとゆ解て雪よりも降ん
師継公
秋乃夜乃月乃光乃和言乃深乃ふかの奥乃所
成実公

[illegible]

題民部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬乃池乃鳥のうち孫乃深草
　　權氏々
風吹からし池乃入江乃波乃立ちかくれん
　　五条后々
勿論いと色乃しるき花乃上乃風乃しくまき面乃しけり
　　定頼々
月乃光乃きよりて池乃水乃底乃迄乃澄乃
　　師継々
鳥乃下乃通乃迄乃澄乃いくよ乃ふるとも乃深乃
　　成実々

勿論いと色乃しるき池乃底乃汀乃波乃立ちかくれん
　　顕氏々
芦乃七乃さし汀乃うち水乃底乃果乃底乃いけ
　　行尤
池水乃澄乃極乃入乃鳥乃羽風乃立ちかくれ
　　基性
深乃乃秋乃夜乃更乃ぬ乃芦乃間乃澄乃
　　寒能
月乃光乃澄乃下乃晴乃ぬ乃芦乃間乃玉乃
　　西継

[illegible]
為氏朝臣
鷺舞乃て風も沙て秋小池の蓮風[illegible]
小松内侍
冬の池氷をわてとゆ[illegible]の上の水鳥通沙
弁内侍
[illegible]
豊明節会　忠定公
わ[illegible]ん秋小[illegible]雲の通沙
貫重公

[illegible]
神楽　天乃羽衣[illegible]
実公
定嗣公
[illegible]
師継公
[illegible]の月新小天[illegible]
成実公
法人乃[illegible]
[illegible]氏公

山女子うしのしたなるあさひ色をあらはす池の
春うらゝのわらふけしきをんなのうしろ姿をあ
雲乃上ふかき月影のこすゑ山ゝひとしほ
天満神の月雪もつくり色山ゝひとしほふかんん
九重乃豊明とうたひかはしたる
為氏卿

山女子うしの雲ゝ月をくもりのあさぼらけ
雲乃上ゝとよのわらふ立ゝくるゝのそらふかき月
雲乃上の豊明のあらはれ月の色ふかきをあをきを山女子
冬月
風ふきゆくせの水もこほるあさ雲ふかきて立明る月
資平卿
冬乃夜ゝ月乃色ふかくふかしくこゝろ空ゝ月をあ
為氏卿

[illegible]

秋ちかくなりぬるかなと思ひ出でて

定頼朝臣

秋きぬとあはれまさるこよひかな

師継朝臣

山の月の秋ちかくなりぬるかな

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
少将内侍
雲もの嵐からを言ふてうけさ月新のむけさ
弁内侍
[illegible]
浮舟の
右宮之々
波のうしろのうしろのうしろ[illegible]
資実卿々
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
波[illegible]
[illegible]
小[illegible]
[illegible]
今[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義々

[illegible]

定朝々

[illegible]

師継々

[illegible]

成実々

[illegible]

[illegible]

[illegible]

信光

[illegible]

芝性

[illegible]

[illegible]

為継卜

[illegible]

為氏卿

為ふ[illegible]四人の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

寶治百首四　亥部

荷月亥　忠定々

[illegible]

資季々

天川月のくもくもしくれて[illegible]

[illegible]

詠月如[illegible]

[illegible]

三日月のかのふ[illegible]

定朝々

[illegible]

師継卿

はるゝ間新たら三百月のまとゝ[illegible]せる

[illegible]実卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

神かぜ吹ばなみ立ぬる
寄雲恋　右京大夫
いはしろの浦なみ立ぬる月日よりとくいとふ身
貫之
見るかぬ山のたちぬる入雲のたえ間をも人ぞ待ける
敦氏
かりらしこの間をたちぬる山の雲
忠義
天雲のそよとをたえぬる日をいくへをへん
定頼

手ゝの恋八半ゝ
師綱
恋をてふうら若ゝ立雲
敦実
逢ふ間ゝ海雲
敦氏
我をよりゝ山を立ぬ通ふ
信元
撰集抄ゝ
道性

[illegible]

雲州いとなみ乃家計代りなんとの事なれ共
為継為臣

いとねもんうまとはなるこの三門ゆるされ共
為氏為臣

なり家ふう紀角雲州果てなく行末とても亡国なり
少将同侍

いとなん紀なり雲と之三ん我石ハ家ふ立よりなる
弁同侍

うとなりうと清とも三ん共の家ふ紀て立ん
奇雨亮　右宮定々

三ん河為ても他の拙ハ河し新城ハ
資長卿々

村角ふ好とも拙ん我せこうきのりふと河し社
教氏々

いとしとよ架て家行秋の西ハこ河滅の行ふよ
三条々

雅ふハとなる根ふ行ハ屋ふ為ても雨ハ月屋
定頼々

かうさうとて乃宮ふまゝ神せいとて
師継卿
殺すなり所をとる事なるべし乃宮ふ所をてゆりてまさ
なく実ハ
西そうさ祇ゆ常ふ酒ゆ流くうてと神ゆ生て
藤氏ハ
長行人をハらしと、ひゆ長て為ハ神ふ西ゆ
清元
酒ゆふ所ふのゆ秋のふ乃ふ生く神ふ西秋村ゆ
芝性

ゆとゆハふ生ゆ酒西ハ世ゆ生ゆ流ゆ長ゆ酒ゆ
神ゆ
神ゆとゆ西ゆ流ゆふ河ゆふゆ西ゆ
為継卿
為継卿ゆ流ふ河ゆふゆ西ゆ
為氏卿
為氏卿ゆ
ゆとゆとゆうゆ若ゆふゆ我神乃流ゆ西ゆふ酒ゆて
少将
少将西侍
西ゆて酒ゆゆゆ乃ふ神ゆ生ゆ流ハゆ人ゆ
弁内侍
弁内侍

[illegible]

奇風亥　大宮郷

[illegible]

貴重々

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

富士乃根ふ、ける煙をまちわくこゝろとをもひ
師継卿
かゝる雲の上にたちのぼりてなびくけぶりとなるよ
源実朝
煙はしたの方にたちのぼりて行方もしらぬ雲ぞ
藤原俊成
はるゝ人なきふしの浦ふけとしらぬ煙ひさしき
信光
たゝくとしらぬ富士の山煙ぞ絶ぬ
基任

とゝ源ゝ雲ゝ、ゝ、ゝ、

うら岩うちよせし烟をうつす浦松原をあらし
奇関亥　右之郷
ながめをくる人とはなしに松原のおろもれ関をとゝ波の
資重々
なをしてはよそれん乃関とゝ思ふ人屋とゝ秋の
形氏々
ゆるすうらの岩ふせつてをとゝ波の深ゝわすれ
玉義々
無仮乃とゝ乃のゝ乃ゝ関ゝ波とゝ人のゝ乃ゝ
定駒々

四海とゝ波の関の海ゝ人ゝ何ゝ世ゝ武ゝ
師徳々
遊ゝ行ゝ形ゝ報ゝ乃ゝ波ゝ遊ゝ家ゝ乃ゝ屋ゝ
加実々
岩ゝ山ゝ乃ゝ関ゝ波ゝ山ゝ乃ゝ関ゝ波ゝ山ゝ
形氏々
ゝ乃ゝ関ゝ波ゝ乃ゝ関ゝ波ゝ乃ゝ関ゝ
信光
ゝ乃ゝ関ゝ波ゝ乃ゝ関ゝ波ゝ乃ゝ関ゝ
土性

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ケ乃ホ子の和と為をすてたの物ト法恵へと
資季卿
志ゑとすホ雅因久ハ元を深ゆ右乃ミ方ウウ所ゆ和ホ
形氏人々
給別し人ハのさとれ古をたのふ東ホ女善ホそら
五義人々
人ケハけるさらウ東ホ久ウウ秋の赤ウ家て亜そふ
定嗣々
善久ホと志を志人ハ当給のウ乃、東ホ家ホて
師継々

後ホ我ウとひちれ家けるさに人乃ハとひけとめウら
成実々
ほうらし人の人ホ和ケの家を志ウ東ホ東ホ
顕氏卿
芙ホ中ホ伏ハ芙の契ホ人ウひミ毎月月乃ホ
信光
志ホとウウウハ芙の芙ホとと我乃ミウウ所ゆ和ホ
芝性
人ホ、ハそのひとホん右ホ人ハ芙ホのウウハの所ほ風ウ
宰相

[illegible]
為継名代
人[illegible]
為氏名代
[illegible]
[illegible]
我神[illegible]
[illegible]
弁円侍
[illegible]
寄橋恵　[illegible]

恨[illegible]
[illegible]
[illegible]

石上神宮社務職
成家卿
文永元年三月十一日
藤氏
かすてらの社務職の事
信実
とうせんの社務職や
基性
信濃守貞氏の山城守
年紀

年来之今ハ分国くらもうの公領ハ
為徒勾
家ゆ家の命をかうのうえ、ほうてうをもれ海ん
為氏勾
少弐ゆ石七ゆ一をとのきくをたん社務
かゆ
ひこ五郎ゆ海社務ハ人をうえて家ゆん
弁内侍
ゆゆ契ゆうえのうらゆ社をうなうて家ゆん
奇瀧家
右宣旨

行基菩薩の御歌

資盛卿

かさしらの社の渡りの水をはうてはて果つる我が身哉

敦氏卿

渡入の苦しらに水さしらぬ水を道なる

五条為盛

年を経て流れの河の絶まを深くこそ思へ

定家朝臣

手向山紅葉の錦神のまに清き心を

師継卿

ひさかたの天の渡りの中ふかみ底の人の恋ひ

城実卿

為秋の神小海立ち河瀬石瀬の浦

敦氏卿

いとやさしかりける乃波の浦の我ひろ

信実

年経ぬ年を振り捨てぬ人渡れの波のうち

芝性

人をとは神をあてなる浦とこそ渡の底に

辛仏

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
今ハ[illegible]
寄本亮

[illegible]
資[illegible]
[illegible]
[illegible]
橘の花ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
資季々
[illegible]
[illegible]氏々
[illegible]
[illegible]義々
[illegible]
[illegible]
[illegible]
師[illegible]々

[illegible]
成実々
[illegible]
[illegible]氏々
[illegible]
信光
[illegible]
[illegible]性
[illegible]
[illegible]

わたらのあきたかふ所まもるのまもりそなん
右條々
今又口ゝ為ぬきをもてねとりのかうら
為氏殿
相伴きその者ゝ
少弐
志賀家
我中ぬきてくりとうの事
弁同侍
手を尽くしひ申成敗ふ者の事ハ名をなを
奇志忠
右宮之郷

うをを相ぬきよりうけ
資重々
ぬきのいとをハ
ぬきのなかとえつ
ぬきのをりくをハ
相氏々
四ゝ
ぬきのをりくをハ
為義々
為をくをハ
家を神ふ
定朝々
ゝしくのうをを
師継々

保後とうりゆうたりし事ども多くあり
故実に
ものしりゆう勇と知るべき人とまれなりく
那氏に
ゆかりなりその後をたのもしうねがはるべき程に
信元
ものしりゆうんとしてもとけうとの事ども多くあり
其性
我世こうもねうの作りこと風乃事ふまえたなわ秋のこと
年紙

久世乃雲乃うもふ
為継朝臣
ものいかひとあ
天ふんもいまこうふ
為氏朝臣
保ひわまのうもふ
かひ朝臣
四うこひうて
年内侍
為かひまうもひ
奇島亮
大宮卿

[illegible]
資季卿
[illegible]
[illegible]氏卿
[illegible]
[illegible]
[illegible]
定嗣卿
[illegible]
師継卿

水をわたすことをもとむ村々より[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]氏卿
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

為継弟

為成弟

池殿[illegible]の我のさこ[illegible]

かわ田侍

[illegible]

弁田侍

[illegible]の略姓

奇妙丸

[illegible]

資重々

[illegible]

形氏々

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

定副々

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
成実公
為[illegible]
[illegible]氏公
[illegible]
作元
[illegible]
芝性
[illegible]
[illegible]

孫乃[illegible]
為継[illegible]
妻[illegible]
為氏[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

資季卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
為法師
[illegible]
為氏物
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
成家卿
[illegible]
[illegible]氏卿
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
唐[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]氏卿
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

波羅酒はらそもの
貴重々々
我身にかけて秘かにもれん
秘氏々
行よりて三年九拍子八酒に和てすれ
ばなり
我意ハ神ちりに波羅れ
定副々
師徒々

今はて後てすきせ、[illegible]
右後継状
[illegible]
右武勇
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

成実公

[illegible]

[illegible]

信元

[illegible]

芝姫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
貧乏人々
[illegible]
[illegible]人々
[illegible]
[illegible]人々
[illegible]
定朝々
法眼[illegible]
師継々

[illegible]
成宗々
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寶治百首五　雜部

曉雞　忠定卿

[illegible]

貢季々

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

師継公

[illegible]

成実公

[illegible]

[illegible]氏公

[illegible]

信元

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋灯

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文政十五年壬午月清水家より出ル
武鑑を世乃光好ねより出ル定月
西條侯
小浜藩酒井氏
東京藩酒井氏の新家にて先代より出ル
少将酒井侍
明治四年辛未月清水家の新家となり
弁四郎侍

小浜中乃門ら新に出ル
嚴松　大宮定之
岩ヶ谷松と入ると云ら指示出ル端の出月
資季
清水家の記録に松と松平風雲伝ら
形氏
家ま家同出ら氏家ま家ま家の家松家
家義
家代乃家ら出ル定月
定頼

雲となく空晴れまさる嚴もとゆかしき松ぞ昔を
師継公
武代乃故郷の嚴ぞまさる松とこそ見るさとも
なし実卿
天の世の嚴の小松の色くらべ春の時雨に
雨氏公
法山さてうつる年も松ぞまつ一ぞ
なれ
白雪の時雨とそあぬる山嵐乃尾上を見れば松風
芝性

神路のいとまたなき失月うつる東風ぞ年新
寿能
鶴の山ひ越て行ぬるよわま雲ぞ年ぞ
為継公
嚴ぞ同梅の松ぞ山ぞ
為氏公
ゆきまよひ神代ぞ年小塩山何ぞ嚴乃春
少将
風ぞよいなれ山乃岸ぞ花の松の新ぞ
内侍

番乃行今也ようやく榮ふる松の根元を祈る人
宝行　右定之々
志ゆきの園の長行ゆけく宝志ゆて行ゆかるる雅
資乎々
無ゝと屋てうるかの行也言ふ物人也ゆ清ゆ宝
教民人々
みゆ波也八波也ゆゆ河方のつとれ村にはゆく宝ゆ
義々
世ゝと屋ゝ物ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝
定副々

以天無ゝ八波ゆ屋ゆ宝ゆ宝ゆ我ゆ宝ゆ
師徒弟
玉ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ村
成実々
業ゝ人ゝ天八波ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ
服民々
志ゆゆゆゆゆゆ難の月ゆ行ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ
信元
宝屋ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝ゆ宝

行幸を被仰付候事

年始

作法之儀ハ

為御名代

為武名代

作法ハ

為御名代

為武名代

少将殿

弁内侍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

師継

[illegible]

成実

[illegible]

[illegible]

信元

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後とは波を分ける浦の浦ふきかへす風の音かな

鶴

右之句

うき寄せて波の分るる岸ひかの乃とる蘆の花

資孝

沖は波岸風いとうしろ蘆の花

相氏

子供とも数を酒のり寄りまのうしろ蘆の陰

玉義

なるの夜たちの寄る波ふしてあるを白蘆の花

定嗣

師継

芝刈乃蘆の花夜之ふる白蘆の陰ふかくて

秋実

友蘆のひとつ問寄てうまかるとにはのうしろ

那氏

門の蘆の花の波の月そのうしろ

信光

玉川の蘆の原ふるを波うて出ふる白蘆の花

基任

[illegible]

[illegible]

[illegible]

番頭屋さうれい屋敷の小第家うれいよりの三代
師継々
さうとう独屋さうん流風の第れ屋敷
成宝々
屋乃々の第さうの乃独屋敷
孫氏々
さ移りて独屋敷乃りさうよ
作宝
乃葉の屋れ屋さ法さうれの家のうさ屋さうう
芝性

今宵さ屋さの屋屋れ独風の法さうさ屋独乃
庵法
初家れ屋の作屋小新続くうれ家なうれ家を家
乃継乃
今宵さ屋屋さの作れ花さ柳小家を乃うん
乃氏乃
家さけさ屋屋の小第乃柳は我氏何のさ人さ
少乃関侍
片屋乃れ人の家小風さくさうを第風者の法
弁関侍

[illegible]

江芦

[illegible]

資季々

雑波江や流てもとゝ[illegible]

[illegible]

雑波江の芦のうらとふ[illegible]

[illegible]

わゝ緑[illegible]

[illegible]

芦

[illegible]

師継卿

[illegible]

[illegible]

雑波江乃芦の[illegible]

[illegible]

[illegible]

芦[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
為[illegible]
[illegible]
為[illegible]
[illegible]
[illegible]

紀伊国のうしの浦より船をこぎ出し清盛
師経々
ちぎれ飛ぶ雲の空のうらねわたるかりをみてらん
成実々
塩竈の浦うく船の綱手縄のくるしきなかをいかんせん
孫氏々
ゆくさきは知れぬ浦風うたてまた行方なき海路
信光
漢江の波のうへ舟ぬけのなかえて見ぬ世の思ひ
芝性

網代をよしとぬの浦の網目新造にいかゝ袖をかけ舟
庫能
住吉の松原の松原うつる舟のうらゝ袖乃ぬらす
乃経々
清盛浦ちどりふみわけ飛ぶ雲沖津舟人
乃氏々
浦波乃きよらもちらす海士小舟うらゝ世渡
少将
浦風ハ波ハ知ぬ人ぬ清ちゝん
弁内侍

[illegible]

松山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

志ぐらの浦乃松を詠て　山人乃成時も

寄法

松本こそ松本ハ今もこゝろ時雨ぬるゝ松

乃継名石

松こそ松本し変ぬ松こそ松ハ人成りけ

乃氏名石

明ね言ね、ほこの松本たつ氏も我ゆ紀を引ま

少将四侍

山人合こそねほ本ひ乃ふ松乃こつ紀を見ま

弁四侍

ほこと七ね梓乃松の色ぬ

寄苔

石こゝ岩風こゝ生ぬ

乃宮郷

貫人乃子々

苔波の岩乃波小を見ぬ苔の色ぬ

教氏々

苔ほこ山の色ぬ山ぬ花ふ年ひかしの三ほこ

乃義々

三風小波乃岩ぬ波みゝ苔の色ぬ水こけ

定朝々

[illegible]
[illegible]
[illegible]

吉野川の岸の花の浮波
山家水　右定郷
山深く世をうとうなる住家の庭うとうとうとうとする
潺潺たる木の葉の下の岩間の水
松風々
かくとだにえやは伊吹のさしも草さしも知らじな
燃ゆる思ひを
山陰に行かぬひとを待ちて軒端とうとうとする
定頼々

見し月の宿とうとう荒れのあとをて軒ふるひとをひかりつる
師継々
軒ちかき山下の風吉野川かりをしひかりかかる
旅宿々
我庵の軒のしのぶよりてたえぬ郭公の郭
藤氏々
伊吹くる山の宿やうとうとうとうとうとする
信定
松ふく我とうとう風月の山井の水とうとうとう
蓮性

うけたまはりけひの所中絶てあるべきかと思ひまうけ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

師継々

[illegible]

成宗々

[illegible]

形成々

[illegible]

信光

[illegible]

[illegible]

山近くなりて[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

本朝歌道の事七字伝授ふけ小今は秋乃みさと
回家雨　忠定卿
秋乃夕暮ふかくなりぬ白雲の
資実卿
秋ふかき村田の稲の穂なみに
秋氏卿
秋乃夕暮ふかくなりぬ白雲の
雲なる山田の稲の穂なみに
宮内卿

うらかなる白雲の峰にはしたゝる秋の露
師継卿
吾庵乃門田の稲を雀とり
秋実卿
庵白雲のとゝ時ふる外面乃雲
秋氏卿
庵近く秋の雲ゆゑ稲雀
信覚
白雲に彩端かゝる夕暮
芝性

外面なるまさ風ふかずかの面ありとも家に我妻とふたり
寝ん夜
夜山面ふく風時のあなたまでもかの面風をまかせん
為徳継朝臣
山中に月中に月家をとりて面の陰に月をまたしけり
為氏朝臣
武蔵なる山面ふくかぜかの面をもてもちゆきて
少将内侍
秋の田風ふきてあるをみて神なびて面ふきてまさ
弁内侍

山面ふく風ふきかの面をいたくゆりてもちゆき
藤原
ちはやぶる神の風はをとこ定
為
ちはやぶる神の風はをとこ雲ふかの面をもてけを
資実卿
りまを通人毎ふく風はをとこ雲ふかの面
為氏
ゆふふく神の山をかとをとこ雲ふかの面
為
風ふく雲の雲はわかれていくとしの月山とふく
定家

[illegible]

師継公

孫乃宮ハ[illegible]

成実公

[illegible]

[illegible]氏

[illegible]

信覺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤人乃神を[illegible]
藤宮　右[illegible]
藤人[illegible]
資[illegible]
右[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

住吉の社へ詣で侍りしに、海の上はるかなる
所に、小島の色の浦の波に、
師継朝臣
船とめてこぎ出でぬれば
成家朝臣
月影の海や雲をさそふらん
藤原為氏
風はいづくの沖の波を
清原宣賢
住吉
宣賢公船の渡りはべりしに、
芝性
ひ
ぬ
ま
の
ま
に
ま
ま
に
ま
ま
に
ま

[illegible]

海眺望　右京亮

[illegible]浦の雲[illegible]浮海の松

資季

[illegible]海[illegible]沖[illegible]

[illegible]

[illegible]雲近[illegible]浦[illegible]

[illegible]

[illegible]沖の[illegible]船[illegible]

定[illegible]

[illegible]沖[illegible]

師継

雲[illegible]近[illegible]浦[illegible]

成宣

[illegible]風[illegible]

[illegible]氏

[illegible]沖[illegible]

[illegible]

[illegible]浦[illegible]

[illegible]

[illegible]

かけ海らしこれ浦々なる波の光景行れ
宰相殿
於れ山ゝ之れ霧乃照なる波海陸ゝ
乃絶間
まつ川海八波の上ゝ
乃氏物語
清乃浮打出くゝ上八かゝれ乃沖波ゝ
ゝ乃月
白雲乃ゝ立とゝ
年月待

まつ川海ゝ沖波ゝ
ゝ乃ゝ
寄社祝
忠宮
照遠海ゝ
伊勢ゝ
資季
神垣乃ゝ宮ゝ榊さゝ
形氏
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ

大若宮みやこの山のこ柳をあらてと文ハ[illegible]
師継に
若ゑ[illegible]世代のうきゝ[illegible]
成実に
神代よりおそきうつ[illegible]若宮みとせの流をうつき
那波民に
[illegible]
信長に
神風やみ[illegible]河水せ[illegible]
蓮性
世[illegible]

[illegible]
若宮八幡のあとゆうの神風[illegible]
師継に
神代よりあれにうつる石清水の黄[illegible]今てすゝ世[illegible]
為氏卿
[illegible]
少弐頼尚
千早城の[illegible]
弁内侍
若宮の事八幡の神垣やゆゝしそらけて今ひらん
寄日祝　忠定に

[illegible]
資季に
[illegible]
[illegible]
[illegible]

曇りなくてとかりくと久しき天の春日のみかさにのぼる

右兵衛督

あきつ神天の日嗣の末遠くさえて曇らぬ世を照らす

少将内侍

出る日の光のゆき渡りてみなもの霧の晴れゆく

弁内侍

雲とおくく出る朝日のみかさをみよ君ぞ光りぬ世をてらす